

課題

○ 現在、ポストドクターを含む若手研究者や研究支援人材の流動性が低く、その活躍の場が不足しており、育成・確保も不十分。

【参考】

『第4期科学技術基本計画』(平成23年8月19日閣議決定) (抜粋)

IV. 基礎研究及び人材育成の強化

3. 科学技術を担う人材の育成 (2) 独創的で優れた研究者の養成

② 研究者のキャリアパスの整備 <推進方策>

・国は、大学や企業等が協働して、優れた研究者が大学や企業等の間でステップアップできるような人事交流を促進することにより、人材の流動化を図ることを期待する。また、大学が、その目的や特性に応じて、出身校以外の国内外の優れた大学や公的研究機関における経験や実績を高く評価する人事システムを構築することを期待する。

『日本再興戦略—JAPAN is BACK—』(平成25年6月14日閣議決定) (抜粋)

第II 3つのアクションプラン

一. 日本産業再興プラン～ヒト、モノ、カネを活性化する～

3. 科学技術イノベーションの推進 ⑤ 研究支援人材のための資金確保

(略) 長期的・安定的に研究支援人材を確保するため、人材の類型化や専門的な職種としての確立、全国的なネットワーク化等を産学官の連携の下で取り組む。

『経済財政運営と改革の基本方針～脱デフレ・経済再生～』(平成25年6月14日閣議決定) (抜粋)

第2章 強い日本、強い経済、豊かで安全・安心な生活の実現

1. 「日本再興戦略」の基本方針

(1) 生産性の向上を生む科学技術イノベーションなどの基盤強化(日本産業再興プラン)

③ 科学技術イノベーションの促進等

(略) 基礎研究を含めた科学技術イノベーションを担う人材の育成は、我が国の発展の基礎であり、多様な場で活躍できる人材、独創的で優れた研究者の養成を進めることが必要である。このため、研究者のキャリアパスの整備、女性研究者の活躍の促進、次代を担う人材の育成などの取組を進める。

『科学技術イノベーション総合戦略』(平成25年6月7日閣議決定) (抜粋)

第3章 科学技術イノベーションに適した環境創出

3. 重点的取組

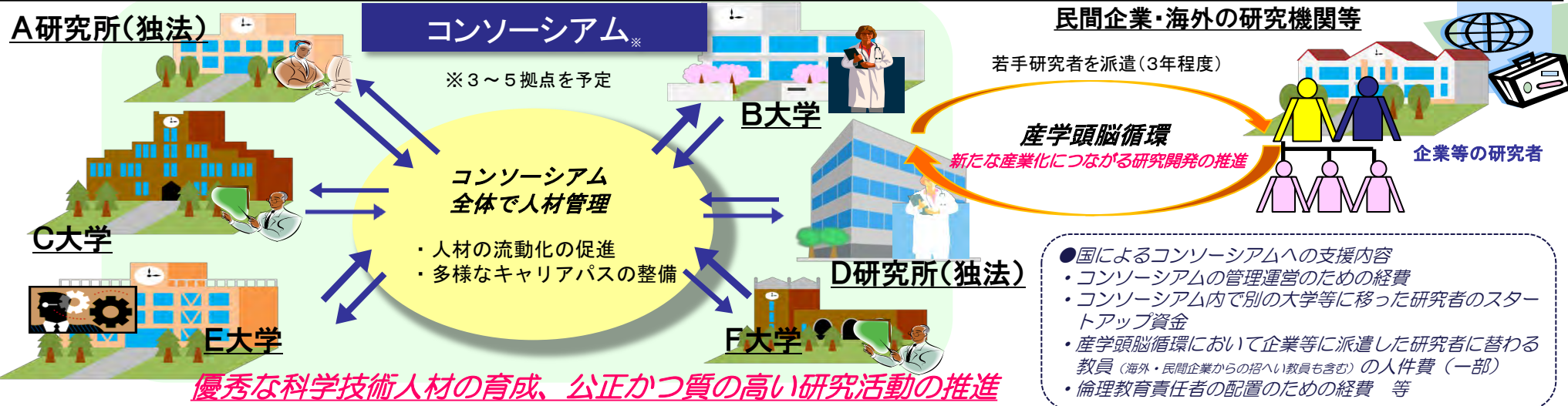
(1) 企業・大学・研究開発法人で多様な人材がリーダーシップを発揮できる環境の構築

② 主な施策

・大学は、複数の大学によるコンソーシアム(大学群)を形成し、若手研究者の安定的な雇用と流動性を確保する仕組みを構築

事業の概要

○ 複数の大学等でコンソーシアムを形成し、企業等とも連携して、若手研究者や研究支援人材の流動性を高めつつ、安定的な雇用を確保しながらキャリアアップを図る仕組みを構築。



優秀な科学技術人材の育成、公正かつ質の高い研究活動の推進

期待される効果

(合同研修(キャリアアップ研修、研究者の倫理教育等も含む)、共同研究等も実施)

○ 人材の流動化と多様なキャリアパスの整備により、優秀な若手研究者や研究支援人材の育成・確保を図り、活躍を促進。

(研究者や研究支援人材を目指す者を増やし、優秀な人材を集める効果も期待。)

○ 複数の大学・企業等で連携する強みを活かし、頭脳循環や質の高い研究活動を促進。これにより、我が国において優れた研究成果を生み出す基盤構築をさらに推進。